

2022年9月21日(水)10:00～CRTスタジオで収録

## 「映像」や「マンガ」を活用した読書のススメ

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1)新型コロナウイルスの感染者数が、ピークの8月と比べ減少しています。

(2)例えば、8月からの毎週火曜日の新規感染者数は、

- ① 8月 2日(火)… 21万人
- ② 8月 9日(火)… 21万人
- ③ 8月 16日(火)… 16万人
- ④ 8月 23日(火)… 20万人
- ⑤ 8月 30日(火)… 15万人
- ⑥ 9月 6日(火)… 11万人
- ⑦ 9月 13日(火)… 8万人
- ⑧ 9月 20日(火)… 3万人



(3)このように、8月初めの20万人台から8月下旬には10万人台に、9月中旬には数万人台(1ケタ万人台)にと減少傾向にあります。ただし、油断大敵、少しも気を許すことなく万全の感染対策や新型オミクロン型対応ワクチンの接種を行うなどして、国を挙げた対応が望まれます。もう一步のところまでできましたので、皆で力を合わせてがんばりましょう!!

2. (1)今日の「開倫塾の時間」では、超大型台風14号も去り、来週から本格的な秋を迎えますので、「読書の方法」について皆様と一緒に考えたく存じます。



(2)「読書」にはいろいろな方法があります。私がおすすめるのは、「映像」や「マンガ」などを活用した「読書のススメ」です。

(3)例えば、今年、2022年は、NHK大河ドラマで「鎌倉殿の13人」を放映中です。番組を見て鎌倉時代に興味をもたれた方は、中学校の歴史の教科書や、高校の日本史の教科書、参考書、年表、歴史地図帳、日本史用語集などを取り出し、TVを見てから「鎌倉時代」について読み直してみることをおすすめします。とても親しみを感じることができますよ。



○番組に登場する第一代将軍「源頼朝」や妻の「北条政子」、主人公の第二代執権「北条義時」について興味をもったら、各々の単行本を読むのも面白いです。「マンガ日本史」の「鎌倉時代」を読むことも超おすすめですよ。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡(あづまかがみ)」を角川文庫の現代語訳や解説、原文で読むのも面白いと思います。

3. (1) 来年、2023年1月から12月までのNHK大河ドラマでは、「徳川家康」が取り上げられると聞き及んでいます。

(2) ならば、徳川家康の生まれ育ち、活躍した「戦国時代」「安土桃山時代」「江戸時代初期」の3つの時代について、今から少しずつ、中学校で用いた「歴史の教科書」、高校の「日本史の教科書」「日本史の参考書」「日本史の用語集」「日本史資料集」「日本史年表」「歴史地図帳」などをフル活用、番組の前に「予習」、番組終了後に「復習」がおすすめです。



(3) 2023年は、1年かけて「戦国時代」「安土桃山時代」「江戸時代初期」について読書をするのは、素晴らしい歴史の勉強になります。

○山岡荘八の「徳川家康」など長編小説にも挑戦。

○栃木県は日光市の「日光東照宮」や「日光東照宮宝物館」をはじめ徳川家康にまつわる世界的な歴史遺産の宝庫ともいえる地域ですので、地元栃木の「宝物」も十分に勉強させて頂きたいと思えます。



4. (1) ちなみに、2024年のNHK大河ドラマは「源氏物語」であると、NHKの方から伺っております。

(2) 源氏物語は、世界最古の、女性による長編文学作品で、日本だけでなく世界の古典文学として高い評価を得ています。日本の文化、世界の文化そのものといえます。源氏物語は、日本人であるならば一度は読み、親しみたいと多くの人々が思っていると思います。NHK大河ドラマで「源氏物語」が放映されるのは、日本国民が「源氏物語」に親しむ絶好の機会です。



(3) ①ならば、今年の10月から2024年1月に番組が始まるまで1年3か月をかけて「源氏物語」を少しずつでも読み、番組に備えることは素晴らしい読書と考えます。

② 2024年1月に番組が始まったら、読み残したところを1年かけて読み切る。

③これも「源氏物語」の「読み方」の一つだと考えます。

(4) ①これに加えて、「マンガ源氏物語」を読むことも超おすすめです。

②ただし、源氏物語を原文で読むのは、多くの人々にとっては難しいと思われるので、まずは現代語訳として、与謝野晶子訳や瀬戸内寂聴訳で「源氏物語」を読む。

③少し慣れてきたら、がんばって岩波文庫「源氏物語(1)~(9)」を少しずつ読む。

このような読書も面白い(INTERESTING インタレストィング)と思います。ご参考まで。

○ちなみに、数年前から刊行されている「岩波文庫の源氏物語」は、右のページに「原文」、左のページに各々の文章の注釈がわかりやすく掲載されています。そこでく

まずは、右ページの「原文」を一段落ずつ「声に出して読む」。次に、一文ずつもう一度目を通しながら、その左ページに載っている「注釈」をゆっくり読み、一つ一つの文章の意味を確かめ理解することをおすすめします。

○作家の円地文子さんは、源氏物語で一番面白いのは「若菜」なので、初めて源氏物語を読む人は、「若菜」から読み始め、最後まで読み終えたら「桐壺」に戻ると面白い(INTERESTING)と、アドバイスしています。